

2024年度 一般財団法人たんぽぽの家

事業計画作成におけるポイント

1) 学びあいの場づくりと、学びを活かせる場づくり

エイブルアート・プロジェクトやGood Job!プロジェクト、ケアする人のケアプロジェクトでは、たんぽぽの家や各地の団体の活動の理念や取り組み事例を共有する学びあいの場をつくっている。ここ数年、実験や実践を重ねた取り組みが熟成し、関心のある人や団体にシェアしていくフェーズにある。全国で多くの人が出会い、交流しているが、これから必要なのは、それぞれの学びを活かせる場である。アート・クラフト、ジャンルを問わず人間の創造性をひきだす環境や、尊厳のあるケアのある暮らしの場など、学ぶだけでなく社会で実践する機会をこれからもつくっていくことが私たちのミッションである。

2) オルタナティブな視点をもちつづける

たんぽぽが50年継続して社会に価値を発信してきた背景に、どういう視点で問題を立てていくか、という議論や実践があった。これまであったものと別のありようを提案し、常識を疑い専門非専門をこえて連携をしてきたのは、その時代にあった問題の立て方が新鮮だったからだ。当事者とともにボトムアップで活動してきた結果が現在である。いっぽうで、事業をすることが前提となり、現状が一面的にしか捉えられないと反省することも増えている。これからの事業に必要なのは、今やっていることを自問しながらオルタナティブな視点を持ち、各プロジェクトにおける問いの質をたかめ、プロセスも含めた評価のあり方を見直していくことではないか。それが取り組みの発展、より深みのある成果につながるはずである。

3) 発信力の強化と、他分野との連携

当法人の課題は、多岐にわたるプロジェクトの運営にともない、一つひとつのプロジェクトの深まりや発信の影響力がまだ弱いということである。事業ごとの体制やスケジュールの管理も甘いところが多く、運営すること自体に必死になることも少なくない。自分たちが何を大事にしてどんな活動をしているかを効果的に発信し、関心のある人や団体と連携することで、事業ごとの次の段階にたどり着ける。特にオンラインでのプロジェクトも増えてきたので、リアル/オンラインをまたがった多角的な広報を心がけたい。

2024年度 一般財団法人たんぽぽの家 事業計画

エイブル・アート・プロジェクト

アートプロジェクト企画運営

1) 知的財産権活用プロジェクト

表現を社会に発信するときに必要な考え方や、表現を守りつつ広めていく方法としての知的財産権を、楽しみながら学ぶプロジェクト。

①知財学習プログラムの推進

- ・書籍販売（『表現をめぐる知的財産権について考える本』『身近な事例から学ぶ知的財産 50 の Q&A』）
- ・ゲーム販売（『知財でポン！』）
- ・学習プログラムの実施
（福祉施設職員、学生、教員ほか、障害のある当事者など、対象者にあわせたファシリテーション技術を身に着ける）
- ・プレゼン資料のシリーズ化を図る
（これまで行ってきたプレゼン資料の中身を吟味し、『身近な事例から学ぶ、知的財産 50 の Q&A』のコンテンツを参照しながら、それぞれの課題別資料を作成し、シリーズ化を図る）

②障害者芸術文化活動普及支援事業等との連携

厚生労働省「障害者芸術文化活動普及支援事業」の学習コンテンツとして、知財学習に関する項目を増やし、障害のある人の芸術文化活動の支援に寄与する。全国で障害者アートに関して活動する中間支援団体や福祉事業所などを対象に知財学習プログラムを活用していただく機会をつくる。

2) Art for Well-being ～心身機能の変化に向きあう文化芸術活動の継続支援と社会連携～

令和5年度の取り組みをとおして、AI や MR などのテクノロジーと福祉現場を結びつけて考える機会が少ない、施設や団体の中で継続的な活動につながらない、クリエイターや技術者にとって福祉に関わるハードルが高い、といった課題が挙げられる。これらに対して、①普及活動 ②人材育成 ③社会連携の促進の事業を実施する。

（申請中／文化庁委託事業 「令和6年度障害者等による文化芸術活動推進事業」）

①普及活動： 公共施設・商業施設における普及

全国各地で活動するクリエイターやエンジニア、メディアアートやデザインについて学ぶ学生、障害のある人、福祉関係者を対象に広く周知し、令和5年度の先進事例をもとに、AI、MR、IoT、ブロックチェーンなどのテクノロジーを活用した創作・表現活動または鑑賞・販売活動に関する体験ワークショップを開催。

- ・時期／場所 6月～12月 4カ所（中国、近畿、中部、東北）
- ・準備状況 障害のある児童へのテクノロジーを介した遊びを提案している「KIDS DOME SORAI」（山形）などと協力、連携予定。

②人材育成： 重度障害のある人を支援する施設におけるテクノロジー活用人材の育成

福祉施設に呼びかけて、施設の中で継続的な活動につなげるための育成プログラムを実施する。

- ・時期／場所 5月～2025年1月／4カ所（全国各地）
- ・準備状況 4カ所のうちひとつは、すでに協力連携関係にある重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重症心身障害児（者）施設「四天王寺和らぎ苑」（大阪）で実施予定である。

③社会連携の促進： 重度障害のある人を支援する施設におけるテクノロジー活用人材の育成

1) 展覧会

令和6年度の成果を社会に発信・共有するための展示。また、福祉現場との新しい実験に今後参加してみたいクリエイター・技術者を呼びかける。

- ・時期／場所 2025年2月／1回（東京）

2) シンポジウム

令和6年度の成果を社会に発信・共有して振り返りと考察するためのシンポジウムを開催する。

- ・時期／場所 2025年2月／1回（東京）

3) 冊子

先進事例、福祉施設とクリエイターやエンジニアが実験的に関わりやすくするための工夫、福祉施設の中で継続的にテクノロジーを活用できる人の育成などについてまとめて冊子を制作する。

- ・時期／場所 2025年3月発行
- ・部数 1,000部

3) ろうきんプロジェクト2024「エイブル・アートSDGsプロジェクト(仮)」

これまでの4年間の実施を振り返るとともに、新しいプロジェクトを始動する予定。近畿二府四県のうち、奈良を舞台に、企業の労働組合と連携したアートプロジェクトの実施を検討中。障害のある人の芸術文化活動と地域をつなげ、誰もが生きやすい社会づくりに寄与する。

- ・主催 近畿労働金庫（※会期は未定）

4) 奈良県内でのアートプロジェクトの実施

奈良県内で芸術文化を育てていくことを目的に継続していく。公募プログラムとして定着している企画のため、それぞれの企画をより深めつつ、広く周知することをめざす。

①プライベート美術館

奈良県内の障害のある人のアートを地域へ広め、愛でる文化を育てるため継続して行う。

- ・作品募集〆切 7月上旬(予定)
- ・お見合い展示開催日程 7月下旬(予定)
- ・実施場所 東大寺総合センター 小ホール(予定)
- ・開催期間 10月19日(土)～11月4日(月・祝)(予定)
- ・開催場所 近鉄奈良駅周辺の店舗や奈良県内の社寺や町家など

②ビッグ幡 in 薬師寺

前回の「ビッグ幡 in 東大寺」で採用された64作品(みんな芸ピアノで選ばれた作品1点を含む)の中から改めて48作品を選び、薬師寺の規格にあわせた幡を製作し掲揚する。

- ・作品選考 4月中旬(予定)
- ・開催期間 9月～11月の奈良県みんなでののしむ大芸術祭開催期間のうちの約1ヶ月間
- ・実施場所 薬師寺境内

③ビッグ幡 in 東大寺

全国から公募で集まる作品を、選考委員の投票により選ばれた作品をデザイン化して幡に仕立て、東大寺大仏殿前にて掲揚する。

- ・作品募集〆切 7月上旬(予定)
- ・作品選考会 7月下旬(予定)
- ・選考実施場所 エルトピア奈良(予定)
- ・実施期間 11月2日(土)～10日(日)(予定)
- ・実施場所 東大寺大仏殿前

④ビッグ幡原画展

ビッグ幡 in 東大寺に応募されたすべての作品を、ビッグ幡の期間に併せて展示する。

- ・作品募集〆切、実施期間 ビッグ幡 in 東大寺に準ずる
- ・実施場所 奈良公園バスターミナル(予定)

⑤ビッグ幡採用原画巡回展(仮称)

「ビッグ幡 in 東大寺」で幡のデザインに採用された絵画作品(最大64点)を、奈良県が指定するイベント会場のホワイエにて巡回展示する。

実施イベント、日程、会場

- ・ゴスペルコンサート 11月2日(土) 奈良県橿原文化会館
- ・まほろばあいのわコンサート2024 11月30日(土) やまと郡山城ホール

⑥授産商品販売会(仮称)

「みんな芸「結い」チャレンジ」の一環として奈良県の開催するイベント会場内で、県内の障害者就労施設の授産商品の販売会を開催する。

実施イベント、日程、会場

- ・アートライブ(仮称) 10月26日(土) 県営馬見丘陵公園
- ・まほろばあいのわコンサート2024 11月30日(土) やまと郡山城ホール

5) 可児市文化創造センター「エイブルアート」展企画運営

2024年に「清流の国ぎふ」国民文化、障害者芸術文化祭が開催される。そのため、例年と会期をずらして文化祭と連動しての実施となる。内容については、障害のある人のアート作品だけではなく、創作の環境や道具などにも価値を見出すようなテーマを計画中。運営にはアートセンターHANAが企画から関わる。

- ・会期 10月30日(水)～11月6日(水)
- ・会場 可児市文化創造センター(ala)美術ロフト

6) かねでんコラボ・アート21 特別協力

2024年度も継続実施の予定である。昨年度に引き続き、U-18部門を設置するなど、あらたな応募を促す。また、コロナ禍で関西電力の各支店などの本事業の意識が低下していることに対し、内部でのブランディングの強化などを提案している。入選作品展の会場は未定だが、活動を広く社会に発信する機会としてディレクションにも力を入れる。

7) Good Job!プロジェクト

1) ニュートラの学校/福祉と伝統工芸をつなぐ人材育成と仕組みづくり

障害のある人をはじめ、誰もがものづくりをとおして交流できる状況をつくることは、その地域における新しい仕事づくりや文化醸成の可能性を広げることができる。「ニュートラの学校」は令和4年度にスタートし、初年度は対面とオンラインでの座学を中心に、福祉施設でものづくりに取り組む人と工芸分野で活躍する人たちが学び、つながる場をつくった。

2023年度は、さまざまな背景をもつ人がものづくりを楽しむことができる環境をつくることをめざし、参加者が具体的な企画提案を行ったり、ミュージアムや芸術系大学と連携した取り組みを行った。2024年度はミュージアムが地域のハブになることをめざし、これまでの活動からより対象をフォーカスした活動を行う。また、伝統工芸×福祉の活動にこれから取り組もうとしている人にむけた企画も継続して実施する。

(申請中：令和6年度文化庁 障害者等による文化芸術活動推進事業)

①ニュートラの学校実行委員会

ニュートラの学校のプログラムが、地域や伝統のものづくりなどにおける現代のニーズや課題に即したプログラムになることをめざし、結成する。実行委員会は、ミュージアム職員やデザイナー、福祉施設職員などで構成する。実行委員会ではプログラム内容以外にもニュートラの学校全体についての議論もあわせて行い、より効果的な人材育成プログラムの実現をめざす。

②ニュートラの学校<入門編>

福祉×伝統のものづくりを普及するためのフォーラムを開催。事例報告や講義を通してこれからのものづくりに必要な視点を学ぶ。また、フォーラム前後の1日を、地域のものづくりのリサーチをし、レポートをする。

③ニュートラの学校<実践編>

福祉×伝統のものづくりを実践する人材を育成するプログラムを実施する。参加者はフィールドリサーチなどの手法を学び、ものづくりをとおしたワークショップや地域での新しいものづくりなどの企画立案を行う。工芸や福祉、地域づくりなどの視点をもったアドバイザーによるアドバイスを通し、実現可能な提案事例を増やすことをめざす。

・実践編Ⅰ：地域コース

参加者が実施地域でのものづくりの歴史や実践を学びながら、自分たちの地域において実践できそうな企画を立案する。

・実践編Ⅱ：ミュージアムコース

伝統工芸等のミュージアムにおいて、収蔵品や教育プログラムなどをいかし、ミュージアムを多様な人にひらくプログラムの手法を学び、参加者が企画立案までを行う。

④アウトリーチプログラム

伝統工芸等のミュージアムが持っている資源（収蔵品や教育普及プログラムなど）を、地域でそれまで届きにくかった人たちに届ける。例えば、地域の福祉施設、高齢者施設、視覚障害や聴覚障害のある人たちが通う特別支援学校などでのラーニング・アウトリーチプログラムを実施などを想定している。また、一般参加者だけでなく運営サポートの方法を学ぶ機会として運営サポーターも呼びかける。

⑤エクスチェンジプログラム

美術系大学で工芸について学ぶ学生や教員、工芸科や美術科のある高等学校の生徒や教員、ものづくりに取り組む障害のある人や施設職員らが、互いの創作の現場を行き来しながら、ものづくりを通して交流する。

⑥成果発表シンポジウムと展覧会

プロジェクトの3年間の成果を共有する。

⑦ウェブサイト等による広報

Web サイト、オンラインブログや SNS などによる発信を行う。また、2023 年度のニュートラの学校実践編 in 愛知の参加者の提案プロジェクトの取材なども行い、前年度参加者にも継続したサポートを行う。

⑧成果報告冊子の作成

ニュートラについての理念と概要をまとめた冊子作成する。これまで実施してきたものづくりや交流の記録、ニュートラの学校において積み上げてきた人材育成のノウハウなどをまとめ、より広く伝えるツールとする。

2) Good Job ! Travel

全国各地で実践される、あたらしい生き方、はたらき方に挑戦する福祉の現場を訪れ、そこに関わる地域や人の魅力を丸ごと体験するツアーを企画する。具体的な内容については国内で連携する団体や地域と相談し決定・実施していく。

・実施協力 UNA LABORATORIES

教育普及・人材育成

1) 福祉をかえる「アート化」セミナー

今年度の実施については、他事業とのバランスをみながら実施時期や内容を検討する。

調査研究・基盤整理

1) 障害者芸術文化活動普及支援事業 (厚生労働省)

障害とアートの相談室

近畿広域をカバーする中間支援組織として必要な経験を積む。アンケート調査などから障害のある人の創作活動の現場からニーズを洗い出したり、各支援センターが活動の質をあげられるようなサポートをこころがける。また、活動歴が浅い地域など、支援が必要なセンターと連携をしたり、多様な表現活動を発掘するなど、地域に必要な視点を示すような新しい取り組みもおこなう。

(令和6年度障害者芸術文化活動普及支援事業へ申請中)

海外との連携

2023年度より海外との連携が戻りつつある。継続での連携の声をいただいたり、新規での見学やプロジェクト実施の相談がある。障害のある人の芸術文化やものづくりなどを発信したり、異文化について学ぶ機会を増やす。また、近年海外渡航についてハードルが下がってきていることもあり、障害のある人自身が体験や発信ができるような機会をつくっていくことも意識する。

ケアする人のケアプロジェクト

1) 住友生命福祉文化財団事業

1) ケアする人のケアセミナー

住友生命福祉文化財団と協働で、さまざまなケアの実践から学び、ともに幸せに暮らすことのできる支え合いの地域づくり、ケアの文化づくりに向けて考え、語り合うセミナーを2005年から各地で実施してきた。今年度の鎌倉セミナーで20回の節目を迎え、18年に亘り住友生命福祉文化財団と取り組んできた「ケアする人のケアセミナー」は終了することとした。

しかし、たんぽぽの家の「ケアする人のケアプロジェクト」を終了するのではなく、今後は「ケアリング・ソサエティ」の実現に向けて研鑽を積み上げていく。

2) こどもみらいフォーラムおおさか

住友生命福祉文化財団と読売新聞大阪本社が、今年度新たにヤングケアラーをテーマに事業に取り組むべく動き出し、途中から参戦したのが「こどもみらいフォーラムおおさか」である。今年度は、子どもたちのケアに携わる大阪府内の6団体とともに実行委員会を構成し、企画・立案・運営したが、今年度の実施については未定である。

2) なら介護の日 2024

厚生労働省が、11月11日を「介護の日」と制定したことを受けて、県内22の医療、福祉、介護に関わる団体で実行委員会を構成し、2008年から「なら介護の日」を毎秋実施してきた。しかし、22の団体が関わり約一年を費やして取り組んでいるにもかかわらず集客につながらず、また内容もマンネリ化が見え隠れしているため、2024年度の開催は見送り、方向性を探る一年とすることとなった。

わたぼうしプロジェクト

1) 第49回わたぼうし音楽祭

今年度待望の対面開催が実現した「わたぼうし音楽祭」、来年度は49回を迎え、今年度同様にやまと郡山城ホールでの開催を計画している。来年度は早めに大和郡山市に働き掛け、新しい層の人たちを取り込んでいきたいと目論んでいる。幸いにも大和郡山市長、教育長が好意的であり、また、審査委員長の松本真理子さんが大和郡山市民であるため、その利を生かし、大和郡山市で開催することを負と捉えずメリットして捉え、人から人をつないでいきたいと思っている。

作詩の部の入選詩8点が決定し、現在メロディーを募集している。6月1日(土)2日(日)に作詩・作曲の部の選考会を行い、当日発表する入選作品を決定する。並行してゲストをどうするか検討しており、近々企画案がまとまる予定である。

来年の「50周年大会」に向けて、ステップアップした音楽祭とすべく、たんぽぽ一丸となって取り組んでいきたいと考えている。

- ・会期 8月4日(日)
- ・会場 やまと郡山城ホール・大ホール
- ・入場料 一般2,500円 高校生以下1,500円 愛のシート1,500円

2) わたぼうしコンサート&語り部

「わたぼうし音楽祭」で生まれた歌は、「わたぼうしコンサート」として旅立ち、日本各地で歌われ、多くの人たちと心を響かせ合っている。ここしばらくは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためほとんどの公演が中止または延期となったが、少しずつ回復の兆しを見せつつある。

今年も障害のある人たちの歌と語りで、平和と友好、連帯、共生の大切さを伝えていきたい。

ネットワーク

1) エイブルアート・カンパニー

①新たな事業展開

近年の兆候として、企業のビジョンやイメージに応じた、描き下ろし作品の創作の依頼が増えている。現状としては描き下ろしができる作家は限られているものの、今後新たに挑戦する作家の開拓や、より良いサポートの方法の検討を行い、より柔軟なアートの提供ができるようになることを目指したい。

②社会的な潮流への対応

少しずつではあるが、2025年の大阪万博に関連する事業の相談を受ける機会も生まれてきている。エイブルアート・カンパニーとして万博に全面的に注力することはないものの、状況を冷静に見つめつつ、作家の今後の活躍や収入、障害のある人のアートの促進につながる取り組みについては積極的に参加していきたいと考えている。

③作家の創作支援

2020年からスタートした企業との協働による奨学金制度や、現在実施中の「一柳ウェルビーイングライフ基金」を受けての取り組みといったような、作家の創作環境整備のためのプロジェクトは継続して実施していきたい。（尚、奨学金については本年度も実施予定である）

④作家のデビューに向けて

第14期の作家の発表は5月ころを予定している。これまでの作家募集の課題として、新規の作家のデビュー後、実際に採用される案件を生み出すまでに時間がかかってしまっているということがあげられる。新規作家に関しては積極的に企業に提案したり、作家の紹介を丁寧に行うなどし、採用の機会を生み出していきたい。

2) アートミーツケア学会

2023年度より開始された新体制による活動をさらに発展させ、さまざまな領域での実践をつなぎ、新しい活動や研究がうまれるようにする。共同代表や理事によるリレートーク、研究会やセミナーの開催、また2024年度は12月に九州大学で大会も開催する。学会の広報活動と連動して学会全体の活性化を図る予定である。

一般財団法人たんぽぽの家
理事／評議員／監事名簿

役職名	名前	ふりがな	所属・職業 等
理事長	播磨 靖夫	はりま やすお	社会福祉法人わたぼうしの会 理事長
常務理事	岡部 太郎	おかべ たろう	一般財団法人たんぽぽの家 常務理事
理事	田中 啓義	たなか ひろよし	登大路総合法律事務所 所長弁護士
	森口 弘美	もりぐち ひろみ	天理大学人間学部人間関係学科 准教授
	森下 静香	もりした しずか	社会福祉法人わたぼうしの会・Good Job!センター香芝センター長

評議員	石川 久仁子	いしかわ くにこ	大阪人間科学大学 人間科学部社会福祉学科 准教授
	一坂 正和	いちさか まさかず	株式会社ソフィア 代表取締役社長
	宇尾野 久美恵	うおの くみえ	奈良たんぽぽの会 運営委員
	川上 文雄	かわかみ ふみお	奈良教育大学 名誉教授
	柴崎 由美子	しばさき ゆみこ	特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 代表理事
	成田 修	なりた おさむ	社会福祉法人わたぼうしの会 統括施設長

監事	江崎 真喜	えさき まき	社会福祉法人わたぼうしの会・たんぽぽ生活支援センター長
	田中 義信	たなか よしのぶ	元学校法人大阪女学院 学院教育研究センター 顧問